

# 過去半世紀を顧みて

—職業問題を通じて—

遊佐敏彦

明治四十年四月十六日救世軍創立者ウイリアム・ブース大將が来朝した。二十世紀の使徒、貧民の友、世界の老偉人は我国に大いなるセンセーションを巻き起こした。各地で大講演を聞き、山室軍平の通訳は天下一品であった。私の町にも来られた。その時私は中学生で、英語で解かったのが

“Never despair, Never give up.”

「決して失望するな、決して棄ててはならない」だけが今日でも耳底に残っている力強い言葉だ。それから二年の後私は上京した。神田三崎町を通った時に「救世軍大学殖民館」と掲げた洋館を見た。田舎出の私には一体何をすればか了解に苦しんだ。救世軍がロンドンのイエストエンドの貧民窟の根拠地として貧民相手の改善事業に当るところであることを後で知った。トインビーホール

のセトルメントもこの直訳であることがわかった。

賀川豊彦が神戸新川の貧民窟に這入った年でもある。今日ではもう五十三年も前だ。半世紀を過ごし、この半世紀程凡てが問題として新しい目で見直した時代はない。社会問題、労働問題、婦人問題、児童問題問題々々連続で科学の光に照らして凡ゆることを究明しようとする態度これこそ前半世紀の新しい目である。私も大正二年東京市外(当時)日暮里町三河島村の、毎日市内の紙屑六十五貫吐き出す貧民街に住込んで五十年目、昔物語りも出来ることになった。五十年間社会事業の線に沿って歩いて来た。顧みて幾度かこの実務から通れ去ることの気安さを感じた。また幾度か自分の不甲斐なさを嘆いて来た。その失望のどん底に陥いる時にウイリアム・ブースの言葉が響いて来る。

## 日暮里時代

学校を飛び出した私は日暮里の三疊長屋で日家賃十銭の間、今日では想像もつかないが毎年隅田川が氾濫すると必ず洪水が来る。三河島には千軒長屋とて必ず水がつく部落でアヒル長屋とも云ふ。今日では荒川放水路が完成したので洪水から救はれ、パタヤ密集部落は放水路の彼方本木梅田方面郊外へと移動して行く傾向がある。

武蔵野の雑木林の目黒競馬場の程近いところに慈善団体慰養園といふ癩患者を收容する古い施設があった。学生時代はしばしば訪問したものだ。人家が立ちこんでしまったので永く止まることを許さぬ囲いの事情から、患者全部は北多摩の村山の国立全生病院に遷され、今日ではその場所に記念碑が建てたその名残をとどめている。これなどは時勢の変遷を物語るもので、斯くして施設などは郊外へ郊外へと押出されて、スラム街も幾多の推移を物語っている。

当時東京のスラム街といえは四谷餃河橋、下谷の万年町、芝の新綱を東京の三大貧窟と横山源之助著「日本の下層社会」(明治三十一年)にあるが時代によつて変遷し本所深川、浅草、新宿の日雇労働の集まる下谷街に幾多変遷史がある。その頃には郊外で日暮里村、三河島村の千軒長屋、アヒル長屋が出来、日本女子大学では大先輩の丸山千代氏の如きは当時のセトルラーであった。毎年秋になると隅田川が溢れて三河島日暮里は洪水に見舞れる土地であった。今内職としてもマニラ麻繋ぎ(マッチ箱張)、その他の一日よく稼いでも一日十五銭位が最高で、生活と研究を続けるには両立しない。余暇を得て上野の帝國図書館が私の研究室で、入場料は金銭、これにさえことかく日が多かった。それでも私の勉強はこの時程身に入った時はまたとない。こゝで児童心理の翻訳や、チャールズ・キングスレーの“Water Baby”訳をしたが勿論無名の原稿は売れる筈はない。他人の名義で出すのである。サバティの聖フランシスコ伝や中世紀の聖者達に憧憬された。この時にアシジの聖フランシスコの研究もこの感激であつた五十年來のあこがれの地であつた中部イタリヤのウムブリヤ平原のアシジを夢に見た。今回第十回国際社会事業大会が羅馬にあつたのでこの機を通さずとアレジに旅した。西欧中世史は暗黒時代ともいうが、ルネサンス

の「聖ダンテが『日の出の里』と謳ったアソジは、貧民救済の魂の救のために自分の一切を棄て、裸で、はだして、野獸や鳥達に説教した聖者の生れた地を新らしい感激で訪れた。ある時には内村鑑三先生のお世話で独逸から来た若きグンデル氏研究の御手伝をしたり、老母の苦勞しているのを見て学校から喚出されて山口県の中学校の英語の教師に赴任せよとのこと、三ヶ年程教員生活をしたが、三度び日暮里に帰って「心の故郷」に親むことが私には何よりのことで、此処で後期封建社会の救済政策史に親みを感じた。それでこゝで少し述べさして貰う。松平定信は第十一代家齊のとき老中となつた。江戸後期の慈善救済史は忘れない。今日東京養育院の紀元と深いゆかりがある松平定信（白河家翁公）を思出すのである。徳川幕府の老中の上席に命ぜられ、今なら総理大臣で、慈善の政策は一種の王道政治である。江戸は大火、大洪水、淺間山、桜島の大爆發、諸国霖雨京都大火焼失戸数十八万三千戸明和九年で、「迷惑な年」に通ずるといふので、安永年間と永に安かれと改元したが、平和なく、天明の年でも天災地震、人災が相繼ぐといふありさま、実に天命尽きるといふ、洵に惨めな有様、天明八年（二百七十四年前）正月二日定信が重任を果すため心をこめて本所吉詳院歡喜天に心願した。真筆の願文は明治初年寺衰頹のため世に出たが密封の心願書には天明八年正月二日松平越中守儀一命をかけ奉り心願仕候。当年米穀融宜し格別高値これなく、下々難儀仕らず安堵静謐仕り、並に金穀御融宜し行届候様に越中守一命は勿論のこと、妻子の一命にも懸け奉候て必至に心願候事右条々相調はず。下々困窮し御威信御仁徳行届かず、人々解体仕り候儀に、御座候はし、只今の内に、私死去仕候様に願ひ奉り候中略 御憐憫を以て、金穀融、下々困窮に及ばず御威信御仁恵行届、中興全く成の義、偏に心願し奉り候敬白」

国民生活安定、仁政のため一身は無論妻子の命まで捧げる政治家に自ら頭が下り、涙ぐましい覚悟は白川家翁なればこそだ。窮民救済制度確立し町会所に七分金積出金制度、常設窮民教育所が設けられた。この制度の資金の一部が今日の東京養育院創立の基金となつた。

社会事業精神に徹すること政治の要諦である。

時は明治から大正に遷る過渡期、大逆事件生々しい時、社会主義運動弾圧

時代社会改良などもつての外、「社会」といふ言葉が極度にきらわれ、危険思想持主、特別要視察人として特別高等警察の尾行される時代、白い眼で見られる、親類朋友から特殊扱されるといふ、何を好んで斯ることをしなければならぬか。何も曰ないけれど黙々として私の仕事を瞬めてくれるのは母であった。只だ頭が下る。

明治以降我國の社会事業施設の増加の傾向を見るに

明治元年	一二ヶ所
同 十年	三四
同二十年	九六
同三十年	一〇二
同四十年	四五二
同五十年	九一六

明治三十年以降に激増を示し、また事業の種類は大正六年以前には児童保護施設、医療も危険思想の持主として白眼視弾圧された。

大正三年十二月「感化救済事業調一」によれば、感化事業五五、育児事業一三四、保育事業三〇、養老事業二二、施業救済療事業八〇、窮民救助五四、授産事業二三、職業紹介事業二三、宿泊救護二〇、盲啞教育六五、貧兒教育四八、子守教育三、その他分類しがたき事業五五となつてゐる。特に注意すべきは貧事業の勃興にあること。明治廿年代に後藤新平が防貧論を叫んでいることは注意すべきだ。

後藤新平は先見の明あつた人であつた。「帝国衛生制度論」（明治二十三年）『帝国衛生原理』（明治二十四年）更に『救済衛生制度に関する意見』等婦女及び児童の労働保護、社会衛生から防貧論的な社会事業論と防貧制度論をしてゐる。「所謂社会行政なるもの、主眼は労働者の未だ貧困に陥れざるに先立ち之を予防せんとするに在りて從來世人が謂ふ所の窮民救済には非ざるなり。換言すれば未だ極貧最窮に陥らざる中人以下の階級にある人民に対し独立自営を奨励し且之を撫育するに在り。故に之を恤救制度と称せんよりは寧ろ防貧制度とすを当れりとす。今此防貧制度を実行するの目的は第一疾病治療を以て彼等の墮落し来れる貧窮の井口を掩蓋すると、第二には疾病保険を強制し彼等をし

て自ら備ふ所ありて独立自衛の地を為さしむるに在り」後藤新平は実は福祉国家を目ざして居て斯帝國施療病院設立を主張している。彼は到る処遠大な理想を実現せんとする大政治家だ。然るに時代の人々は大ホラ吹きと呼んでいた。

また明治四十三年留岡幸助の著書「社会と人道」の中に「社会改良」とは度々使つてあるが、社会事業といふ語は七百五十頁の本であるが、只だ一ヶ所「社会事業」と序文の中に書いてあるのみ。また大正三年田中太郎著「欧米感化救済事業」（大正五年五三〇頁）の大著であるが「社会事業」と云ふ語が一ヶ所も使つていない。これを見ても「社会」なる語が鋭敏に人の心を刺激したかを知ることが出来る。我国は斯く「慈善救済」と云ふ初期に使つたのであつた。

明治大正昭和の社会事業発展過程を見れば三時期に区別することは人々の一致する処であらう。それを指導原理的に見れば

### 一、慈善救済の時代

#### 慈恵思想

### 二、社会事業時代

#### 救済社会連帯思想

### 三、社会福祉時代

#### 社会連帯福祉国家思想

明治四十二年中央慈善協会が機関雑誌を出し「慈善」と題し大正六年中央社会事業協会「社会と救済」大正十年には「社会事業」戦后「福祉」これを見てもその変遷を物語るではないか。

### 神戸新川時代

賀川豊彦が「貧民心理の研究」の大著を残してプリンストン大学へ留学してから二ヶ年九ヶ月振で、大正六年六月横浜に着いた。彼は東京の貧民窟を見直すため、私と一緒に市内を歩き回つた。彼は神戸の新川に帰つてから、慈善救済だけでは救はれない。労働者自身の解放こそは眞の救済であるとして労働運動に傾注した。当時兵庫県知事は清野源太郎といふ人で、社会事業と労働運動に理解のある人であつた。神戸は成金の町であつた。労働市場の状況、失業問題の発生を予見して県官の職業紹介事業開設を考えていたが、県官は時期早尚で県救済協会の経営することとなり、その責任者の人選方を賀川に依頼した。

ある日賀川は上京して私の日暮里の貧民窟を訪ねて来て、今度神戸で職業紹介

所をはじめるので私に来て所長になれといふのだ。そこでとくと考えたが、日暮里を去つて神戸に行くことに決めた。それは大正七年の春のことだ。そこで私も決心して口入屋のおやちとなることにした。それで新川の貧民窟で県官の生田川口入所となることになったが、こゝにエピソードがある。「ドン底生活」著者村島帰之氏は書いてある。清野知事は曰ふ「口入屋の親方になる点では満足したが、遊佐君は眞の下のヒゲが気に入らなかつた。

「口入屋の主任になつて頂くからは前垂掛でやつて貰いたいし、求職者に威圧を感じさせるヒゲは……」知事の言葉の終らぬうちに

「同感です、早速ヒゲをそることにいたします」知事も満足そうに大口をあけて笑つた。その足で髪床で何の未練もなくヒゲを落して賀川氏に報告した。賀川氏はヒゲのない人相の變つた遊佐氏を見て

「どうした」と聞いた。

この話を聞くと

「では今夜遊佐君のヒゲの送別会をやらう」さうして、その夜有志と一緒にさゝやかなしかも前古未曾有の「ヒゲの送別会」が楽しく催された。遊佐氏は中央にひきぬかれ、東京地方職業紹介事務局長となつたが、神戸でそり下したヒゲは二度と生やしては居ない」

大正七年は我国のエポックをなして居る。一九一八年は内外多年でウイルソンの十四条の平和綱領発表、講和条約調印、ドイツ革命勃発、皇帝退位共和宣言、中国南北戦争、我国では日華対共防衛調印、シベリヤ出兵ヴェルサイユ講和会議、西園寺出発、吉野作造、福田徳三ら黎明会創立、原敬内閣成立、東大新人会、早大に平民会成立、大学令、高等学校令公布、労働組合急増、争議頻発、武者小路実篤「新しき村」を起す、山川均「デモクラシーの煩悶」を出版。島崎藤村は「新生」を出す。内村鑑三、中田重治、木村清松ら再臨運動を始む。多事多端なるものがあつた。特に社会問題として富山県の米騒動。

私にも五十年を社会問題に関係して居る。この間私は此目を以て見て来たことを学問的記録ではないが述べさせて貰ふ。

### 米騒動

大正七年四月神戸新川窮民窟日暮通四丁目に生田川入口所を設立して口ヒゲは勿論のこと前垂掛けて始めた。第一回国際労働總會に失業に対する条約と勸告がなされ、「労働は商品に非ず」のスローガンに雇傭問題は救済事業でなく、産業問題として指向を示す単なる失業救済の施設でないことを意識して来た。ロシア革命の翌年に起つたこの年の大事件は何といつても米騒動である。今年八月五日富山県滑川町に起つたことで、全国四百六十七ヶ所で焼打や其他の暴動が行われた。その参加者は延六十一万四千九百九十人の多きであつた。各地では戒厳令が布かれたし、軍隊の出動を見た。こゝではじめて鎮圧されたわけである。これは実に驚くばかりの速かに傳播したのである。この自然発火的な闘争といふものは、我國の社会運動に大きな影響を与えたばかりでなく、我國の社会事業史上にも新しいエポックを作ることになつた。この米騒動は我國を震撼させた重大事件の一つである。日露戦争の直後の焼打事件其他もあるが一地方の行動にすぎない。この米騒動中産階級以下の生活上の圧迫からの解放と、成金（成金この時代の造語）、富豪階級への反感からの自発的行動であつて、欧州大戦と米騒動は我國社会状態の急激な変化の二大原因とされている。米価の暴騰は近因ではあるが、成金なるもの、奢侈の憤懣であることに注意を要する。

これより先七月二十三日新川郡魚津町の漁夫の四十六名婦女子が米価昂騰を非難して哀願運動から暴動化して八月九日から十九日まで十一日間で三府二十五県にわたる飛び火となつた。神戸では八月十二日米が一升六十二錢五厘まで暴騰したので二万人の大衆が集合し、鈴木商店の焼打が行はれた。この騒動はやがて新川貧民窟に集中し、特に我が紹介所の前に平素圧力している暴力団体の相対持となつて武器を以て何時爆發するかわからない状況を目の前で見た。大阪から軍隊を出動して漸くことなきを得た。モップの導火線いかに此目で見ただのである。速やかに全国的に急激に傳播するかを。事實は想像つかない。その結果は為政諸に異常な衝動を与え御内帑金参百万円の下賜、社会政策的施策の一大劃期である。

## 一 社会事業団体の設立

二地方に於ける社会行政機関の発展  
となり今まで社会事業行政は各地方で内務部地方課所管であつたが救護課となり大正九年には社会課となる。これは我國社会運動に及ぼすこと大なるものがある。

## 職業問題の進展

大正十年四月職業紹介法發布され、その施行によつて当時財団法人協同會が政府の委任を受け、全国職業紹介事業の中央機関として聯絡統一の任に当るため中央職業紹介局長として永井亨博士が就任、初代局長は実務体験者として私を主事に招かれたので神戸のスラムを去つて再び上京した。今日まで社会事業の範疇に入つて仕事は労働需求関係と産業方面に示向する形態になつた。總て官制が大正十二年四月制定、中央職業紹介事務局と地方二局東京と大阪とに置かれ、内務省社会局社会部長が中央事務局長を兼任することになつた。こゝで日本を二つに分け東京地方職業紹介事務局は関東、東北、北海道を含めての分野である。前垂掛の口入屋の親爺が初代の局長としてお役人となるのだから面食つて夢のようである。大正十二年三月末のことである。内務省から電報が来た。「出頭せよ」。それで当時内務次官塚本晴治氏に面会すると、「お前を東京地方職業紹介事務局長にするから承知せよ」なお塚本次官が曰つた「こんな仕事は御役人気分ではできないから、君のような方にやつて貰はねばなりません」全くの野人が、役人など夢にも考えなかつたことだ。お役人が悪いのではない、官僚的意識が不可なので、役人としてつとめは出来ない筈はない。斯くして職業行政の一端を控ふて立つた。これは単なる社会事業的意識から分化して、産業的、教育的な使命に發展する新しい視野が展開して来た。

斯くして我國の職業紹介制度は

- 一、無料主義、慈善的、恩恵的なものでなく職を求た者に職を与える義務を意識した。

- 二、職業紹介の特典、中間搾取を除くこと個性尊重、職業指導選択適性

### 検査等

三、官利業の全廃、口入屋桂庵其他の弊害を除去

これは国際労働会議の採択によつて我國の労務需給調節の機関として全国に紹介網を完成することが急務となつて来た。

かくして資本主義社会には必然的の不景気が循環して巷には失業者が溢れる。

軍備縮少によつて、民間工場、陸海軍工廠の集団解雇が行われたので社会不安、雇傭問題は一法人に委られない大問題となつて来た。

一、公益職業紹介所と連絡統制

二、農村出身者の帰農

三、開拓事業未開地開墾の幹旋

### 解雇手当の浪費の警告

以上の要望を含むものが職業行政の一面である。次に国営化の意識がハッキリした。更に我國の社会事業発展段階に大きなものは関東大震災である。斯くしてまた新しい段階が開けた。

### 関東大震災と社会事業

大正十二年九月一日(土曜日)午前十一時五十八分に突如として地震が襲ふた。この日は私は横浜の桜木町に中央職業紹介所の落成式があるので、京浜電車で途上の出来ごとだ。有楽町を出ると高架線の異状な動揺を感じ帝国ホテル裏で京浜線は停車した。窓から外を見れば土煙を上げて崩壊する。新橋から銀座裏の家々から火の手があがる。はじめて地震であることを知った。しばらくして高圧線にふれない様に有楽町駅まで戻るとフラットホームは潰れていた。直ちに職場(内務省社会局、今日の労働省)に戻ることにした。余震しばしば下町は黒煙天に押し悲惨な光景である。局の各職員は私の安否を案じて待つてゐる。女子職員は男子職員付添で帰した。

関東大震災は空前の大惨事でお挙げて罹災者を救済した。第一次救済は応急救護で食糧、日用品、住居の焦眉の急に応じ、第二次は一夜にして全財産を失つて生活の方途を失つた無産大衆の失業に対する援護、第三次は京浜地方の

復興、新文化の建設であつて全国が全力を挙げて復興局の設立を見た。この初代の復興局長官は後藤新平であつて、彼の腹案通り実行すれば大東亜戦敗戦の空襲にもこんなまでに惨状を呈しなかつたであらう。

関東各府県大地震、東京、横浜、横須賀、鎌倉火災、千葉静岡海

一、府六県焼失破壊流失損害世帯

六四九

死者九一、三四四人、行方不明一三、二七五人、重傷一六、五一四人、

重傷一六、五一四人、軽傷 三五、五〇〇人

当日遭難者一一、七五八、〇〇〇人推定と発表された。京都十数億富を烏有に帰し焦土化した。この真唯中に応急救護と帝都復興の一部に参与した。

「災害は忘れた頃に来る」自分も奇しき運命を想ふ。罹災者救護と社会状態の恢復に努力。

この間に我國の社会事業の進展は目まぐるしいものがあるし、国営主義職業紹介事業の必要の意見書も協調会会長徳川家達の名に於て提出している。山が置かれ公官職業紹介所を管理、事業は国家の事務であり市町村長は国家の命令によりてその事務を取扱ふことになつてゐるのである。労務需給の調成の機関産業的使命を認識した。序だが兎角社会福祉の施設は稍もすれば間に合せ建造物である。今日の桜木町公共職業安定所の建物は鉄筋コンクリート四階で震災の当日落成式であつた。建造費の二分の一は国庫補助でその認可に不燃性建物質沢であると難色を示したが、私はこれを責任以て認可した。全横浜は実土と化した。市庁も焼けた。応急の急護所はこの建物でやつた横浜の空襲の中にも焼け残つた。四十年なつても立派にやつていけるのではないか。社会施設程不燃性の建物などは贅たたくであるとの認識不足な見方は今でもある。空襲の時にコンクリートの建物だけ社会施設は残つた。これより兎角日本人は拙速を尊ぶといふ見方が多いので公共の建物が焼失するこの損害は莫大なるものである。

我国社会事業は逐年その数を増して昭和元年には公私社会事業総数三、三九八ヶ所達した。経費三、九八一万二、〇〇〇円に達するようになった。職

業紹介所は全国的連絡網を張る組織的な発達を要する。

公立紹介所

私立紹介所

計

元年 一四六

四一

一八七

四年 二〇二

三六

二三八

我国の明治末期以来欧米の慈善救済の方式分化を輸入してきたが、世界大戦后各国の共通な経済的、社会的変動が現はれ、各種の社会問題が発生することになり近代的意義の社会事業が出現した。これは我国に於てもその普及、その内容の不備はあつたが、社会事業立法、行政、財政、経営に關して多くの欠点があつた。

### 失業問題

「労働の能力と労働の意志を有するに不拘就職の機会得ない者」は失業者である。この深刻なる、しかも陰惨な脅威は二十世紀の特色ある社会問題である。この近代産業の所産は戦后どの国でも当面した。我国も御多聞に洩れなかつた。特に米國が眞面目した大恐慌は我国にも多くの影響がある。その実体の失業者数の把握には最も困つた。凡そ失業統計は欧米も甚だ不備だ、況や失業保険なく、労働団体の統計なく、職業紹介機関の充実せざる時には更に遺憾である。

欧州大戦の経済恐慌に見よれ我国も世界の不況の影響、関東大震災の甚大な打撃を受、民間工業の集団的解雇、軍縮等により多数の失業者が生じ一層の社会的不安をあげかけた。

大正十五年六月社会事業調査会を設置。朝野有識の士を集め昭和二年六月「失業保護施設に関する体系に關する決議」を行った。失業の防止救済の徹底は産業の健全なる発達、教育制度及方針其他の施設によるが、

#### 第一職業紹介

#### 第二失業救済事業

#### 第三職業補導及授産

#### 第四職業選択及指導

#### 第五失業共済

を要する職業紹介制度の活動でなければならぬことこそ昭和四年世界的経済恐

慌であつた。全世界は失業の暗雲に蔽はれた一九二九年から深刻になつて来た。国際労働局の發展によれば世界に一千万人の失業者、一九三一年一月には約二千万人と突破した。世界大戦中に直接間接動員数約二千万人と称せる、世界を挙げての大戦に進中したので、一九三一年末に二千三百万人以上が職業戦線から後退した。実に独逸一国だけでも五百万人、人口十五人に對一人の割合、ドルの國人に一億五千万に對八百万人を算した。一九三二年は更に世界を吹き荒ぶ深刻な経済恐慌と失業問題との暗雲低迷、凡ゆる社会と世相の憂鬱で、人類有史以来かゝる広汎な陰惨な社会問題はなかつた。

我国の失業状態はどうか。政府の発表によればこゝ三、四年倍加して五十万人、五十億の借金に悩む半失業状態の農村である。我国は海外のそれと比較して症状は陰性であり、自覚症状に達していない。慢性的、内攻性による国民で失業の体験をしたものでなければ近代的な新しい苦痛感覚である。これ近代資本主義経済の中に喰ひ込込重大疾患であることを意識しないのである。

ローザンヌ会議で独逸賠償問題を中心として集まつた各国代表者の前で英国労働党宰相ラムゼー・マグドナルドは近代的な悲鳴とも見るべき演説をした。曰く「この何時解決するとも知れない経済界の苦悩と、全世界を遅じて二千五百万の失業者のある今日の社会状態は、全世界が協力しなければ如何とも為し難い。」これ資本主義社会の末期の足音であると評した人がある。

ロイド・デューヂが大戦争が終ると議会で演説した名句がある「準備なくして戦争に入るよりも、準備なくして平和に入るは更に重大である」と。実に失業問題は有史以来の深刻を呈した。

大恐慌切抜の使命をおびて成立した浜口内閣は十大政策の一つとして失業救済策をかゝけて国際審議機関として社会政策審議会に對し「刻下経済界の状況に鑑み失業救済のため施設すべき事項」を諮問した。

この失業問題の真唯中に職業紹介機関を守る一兵庫として自分の使命に生きたことは、私としては洵に生き甲斐を感じた。

その多端な仕事の中に於て私は理論的指導を見失はない様に勉強した。それはホブソンの「失業者問題の研究」、やがて世界の失業問題の權威であるウィリアム・ペーリッツの「産業組織と失業問題」と取組んだ。失業問題は慈

善救済の域から脱して、産業問題でありまた教育の問題でもある。労働階級の最後の脅威でもある。これを明確にし、労働市場の統制を明かにしたこの著書を訳して七年かゝって提供し得たことも私の光榮とする処である。一九一〇年英国議会は職業紹介法を通過施行して一昨年で五十周年である。昨年ロンドンの国立職業局に行った時五十周年記念会があったので創業者ペバリッチ卿が老令でも出席され祝辞を述べられたとのことであつた。日時なくお目にかゝる時間のなかつたこと遺憾とする。

### 監獄部屋打破運動

監獄部屋とは名も陰惨もので、その語の起は詳かでない。明治初年黒田清隆の開拓使時代労力不足のため犯罪人を土工に使つて逃亡を防ぐ土工部屋からと誘惑甘言で連れ込まれた土工酷使と長時間労働の搾取から内地人夫部屋も総称する。人夫としても前貸金を借りて途中で「ケツワリ」遁亡といふ両面から生じた人夫募集の欠陥から生じたもので、北海道蛸部屋名がある。これは職業紹介の方面からは労働移動の問題である。この酷使の弊害は要するに工事現場請負制度、入札の悪例から生ずる折りも労働運動が抬頭して来て、監獄部屋打破運動が起つた。我が事務局も労働移動協会を創立して集団労働移動を東京から北海道に送り幾多の困難と失敗を重ねて弊風打破に貢献したことは事実だ。北海道の「椋頭」の連中は「遊佐が北海道に來たら生きて帰らぬと思ふ」と噂したとのこと。毎年北海道用務のため出かけたが、噂ほどでもない。思出しては懐かしい。

### 職業指導運動

大正五年に川本宇之介著の「最新思潮 職業教育の研究」といふがある。その職業指導の項の中に「東京市に職業紹介所はあるが、非組織的非教育的であつて独米英諸国の労働局とも職業局に及ばないこと千里の差がある。」とあるが、これを抗弁する材料はない。我国で職業適性検査の実施は大正四年海軍工廠が職工並び兵員の適性行つた。それより以前鐘紡、京都煙草専売局で行つたらしい。大正十年神田橋中央紹介所に「少年相談所性能診査部」を置き、大阪

は大正九年兒童相談所を置いた。大正十四年七月内務省と文部省合同依命通牒少年の職業紹介は単に職業の斡旋だけでなく、個性尊重及職業指導に関する文部省訓令が出る。これは我国の職業指導運動の本格的エポックである。

#### 一、搖期(研究時代)

#### 二、啓蒙運動期(組織的計画時代)

#### 三、実施期(教育方面実施期)

斯くして教育界が猛然として新らしき時代に入つた。昭和二年六月東京、大阪及び大都市の学務当局は合同し、議は熱し、大日本職業指導協会の設立せられ、もう三十有余年の歴史をもつようになつた。これ我國の職業紹介制度の組織の確立するに及んで更に完璧をなすに到つた。今日職業安定法の確固たる基礎の上に這入つた。我國の社会相から見ても、産業立国の前途から見ても、最も重要な問題たるこの人的要素たるは謂ふを俟たない。技能人、個性尊重、勤勞の精神、職業人としての全人格の傾注と努力によつて幸福な時代を眺望するため地についた確乎たる歩を辿りつゝあることを祈つて止まない。我國の職業指導運動の先駆をうけたまわつた光榮を今更のように感謝する。我國の初期の職業指導運動に参加させて貰つたことを自分の光榮の一つである。これは私の宿命ともいふべきこの激変する過渡的社會事情に生きた過去半世紀の思出でもある。

#### 役人を止めて

社会事業行政、また職業行政事務といふよりも実務的、未開拓の面を歩いて來た。大阪事務局長の時代も満州事變を通じ労働移動の面に携はり、昭和九年第一室戸台風の災害にも直面した。関東大震災に會つた私は別段驚くことはなかつた。私はお役人の衣を脱ぐ時が來た。

社会事業団体も組織化され、各財閥も社会事業助成団体を設立するようになった。私も財団法人三井報恩会に招かれて調査課長から社会事業課長を歴任した。ここで私にはまたとない研究と全国の社会施設を見る機会を与えられた。

時は米山梅吉氏が会長で、特に我國の續絶運動に熱心な方で、国立癩療養所に一万床完成を目ざして精進された人である、特に沖繩に新設するために私も

参加し得たことは生涯中の思出の一つである。  
折しもまた大きな事件に遭遇した。それは二・二六事件の三井の事務所の方  
困である。

## 二・二六事件

昭和十一年二月二十六日東京地方五十四年振の大雪といふ晦暗にまたしも大  
事件が起つた。内大臣齋藤実、蔵相高橋是清教育総監渡辺錠太郎等其他暗殺さ  
れた。戒厳令下歩哨に見守られて深更まで情報を集めるため三井の図書室に居  
残った。日独防共協成立、左翼文化団検挙、軍部大臣現役復活、一すちに戦  
争突入へ急ぎ、東大で矢内原忠雄を追い出したのもこの時で、軍国主義一点張  
「国民精神総動員運動」一色で社会事業もその線に沿ふて行く他に道はなく、  
昭和十三年一月厚生省新設、事変の進展とともに傷兵保護院が軍事保護院とな  
り傷夷軍人又は再起奉公の身体障害者厚生運動は当面の大問題であつた。軍事  
保護院は職業顧問制度を置き、リハビリテーション更生指導運動に全国陸海軍  
病院に巡回した。この仕事は私の後半世に大きな影響を齎らした。即ち身体障  
害者の厚生に関する新しい使命で、職業指導の研究と一致するからである。

昭和十二年から二〇年八月一五日まで即ち太平洋戦争終結まで八年有余、国  
土は四三・五%の減少、物的被害は勿論のこと、死傷行方不明合計二五三万人に  
達し生産活動は停止し、失業者巷に溢れた。インフレからデフレへと転換、連  
合国最高司令部の経済安定、九原則の指令を受け、失業対策各省連絡本部と失  
業対策委員会を二月設置、強力な措置、民間雇用の増大の方策をたてた。

昭和二十二年九月一日労働行政専管の労働省の新設、同年十一月今日の職業  
安定法と失業保険法が相次いで制定された。完全雇用の増大を期し、これに加  
えて社会保障制度、文教制度と職業訓練制度の整備拡充あらゆる国を挙げての  
調整推進こそ福祉国家のものとなつたのである。

大東亜戦争も末期昭和十九年十一月二十四日初空襲に始まり米機動部隊の来襲  
翌年三月十日、五月二十五日B29の大空襲は東京を再び焦土と化した。天災、人  
災其他諸々の災厄は続いて来る。応急救済、救護施設、社会事業的な活動を目  
に見る廻り合せを奇しきことと考ふる突発的災厄、不慮の損害に対応する平素の

訓練と機動性と心構えと経験の欠乏から来ることが多い。「災厄は忘れた頃に  
来る。」と災害は人間への警告を意味する。

## 敗戦后

昭和廿年八月終戦を転機として国内の経済的社会的情勢は一変した。夢にも  
考えない敗戦の結果、外地からの引揚者六百二十一万七千人、失業者百三十万  
人、その他保護を必要とする者約八百万人と推定され、生活困窮者の援護は国  
家責任に於て行ふことがGHQ指導の下に命令され、無差別平等の原則、公的  
扶助の理念が実現されることになり、新憲法による基本的人権、生存権保障に  
まで到達した。

現代会事業発達の歴史を見るに、往時の慈善事業から現代の社会事業への発  
展は根本思想、手法の大きな変化がある。慈善救済から社会連帯、相互扶助の  
原則とによるもの、個人的救済から予防的改善と社会の積極的改善である。そ  
の実施経営は、やがて公共団体の任意的な施設では間に合はない。社会事業立  
法によつて普遍的に実施する社会政策的なもの、また各種職場の福利施設も含  
む領域にまで進む時代となつて来た。即ち社会福祉の国家を目ざすところにあ  
る。公共福利の新精神に立脚する。労働立法、社会保険と相俟つて社会問題を  
解決し新しい社会建設、福祉国家を建設するにある。これらの福祉国家は単に  
限られた対象でなく、産業福利、国民一般のレベルを向上する社会福祉であら  
ねばならぬ。しかしこれが実施には科学的手法と技術の専門技術者を要請して  
これは昔に冷たい非人間性の組織であつてはならない。根本的には人類愛の信  
念が原動力でなければ之に徹しない限り真の社会福祉はあり得ない。

過去半世紀余自分はその実務の下敷となつて来た。現実と直面して自分の力  
なき、不甲斐なき、またしばしば失望を感じ、幾度かその任でないことを感じ  
た。その度ごとに中学時代の世界的偉人ウイリアム・ブース大將の言が耳底に  
く。  
Never despair, Never give up.

(原文のまゝ)